

(表紙)

明治四拾三年

日誌

青年寄宿舍

(内表紙)

明治四十三年度

日誌

札幌区北五条西九丁目

青年寄宿舍

明治四十三年

正月一日 乾坤一転一陽来復茲に明治四十三年の新年を迎へた我等舎生の胸には希望の光
充ち々々て彼等の顔も今日は、いとゞ楽しく見えにけり、兎角今日は今年の始めなれば、
人々も恐らく何にか決心ありしならむ。

委員は六時から餅焼を始め、七時一同雑煮を食ふ、可なりの勇将もありけり、最高数は
拾九点なりけり、昨年比して一般に少数なりと云ふ、九時、学校の新年の拝賀式に監
む、式後諸君は廻礼に忙はしき様に見受けたり、夜は「トランプ」、「カルタ」等の遊戯
をなし、夜十一時頃に明日の初荷売出を見に出〔行〕くものあり。

一月二日 今朝は初荷で各商店は賑はしありき、朝の食事は一年一度のしるこの御馳走な
れば皆々大に食ふたる、中々の豪の者もある様子なりけり、本日より実業之日本、富貴
堂より取り始む。

一月三日 大原武夫、大原純吉両君帰舎せらる、大原純吉君明朝より食事す。

一月四日 水野君本日帰舎せらる。

一月五日 沼田君江別へ學術研究の爲め、旅行し、即日帰省す。

〇〇〇〇 本日ピンポンの大会を催す。メンバー左の如し。

赤

白

大将大原純君

・小野崎君 優待

副賞渡辺君・

・大原武君

管君・

・丹部君

服部君・

・吉野君

	三木君・	・和田君	
優待	水野君・	・根本君	優待
	小熊君・	・近藤君	
	内田君・	・荒井君	
	鈴木君・	・上杉君	
優待	沼田君・	・高橋君	
	小松原君・	・丹治君	
	石川君・	・中野君	

〔対戦、勝敗を示すらしい線は原日誌のマ、であるが、誤りも含んでいるようで意味は正確にはわからない〕

午前九時、大会を開きアンパイヤー小野崎氏のプレーの声と共に競戯〔技〕は始まりぬ、両軍の勇士よく〇〇〇〇たり。

今日又宮部舎長に招待され〇〇〇揃ふて之れに応ず、宮部舎長一家族我々舎生に対し恰も同輩に対し談話された。例年の通り写真を拝見した、余興としては、「かるた」、「とらんぷ」、「闘球」盤、「ふりんち」などであった。舎長より「菓子」、「蜜柑」、「すし」などの御馳走を頂き午後十二時頃満腹して帰る。

一月十一日 本日午後四時頃、篠塚君月寒より帰舎せらる、食事は明朝より始む。

一月十三日 本日午後八時、吉野君帰舎せらる、食事は明朝より始む。

一月十八日 吉野、上杉両君、火鉢を本日より止め、ストーブを使用せらる。

一月貳拾日 曇りの気候、寧しろ暖かなり。午後六時半、新撰委員の第一回の委員会を開き、左の事柄を相談せり、先づ第一に月次会、本週の土曜日開会の件、名札製作の件…等々に就いて相談せり。

一月貳拾貳日 本日午後六時最始の月次会を開く、〇〇君の開会の辞につづいて、大原純君、小野崎君、大原君、篠崎君、丹治君等の演説ありて、可なり盛会なりき、演説終りて後〔恒〕例によりて茶菓の饗応ありて後、余興として名指しあり、頗る盛んなりき。

一月貳拾九日 工科三年沼田秀雄君退舎せらるゝと同時に工科一年野沢静雄君入舎せらる。今晚夕食後、新聞雑誌の競売をなす、其の結果左の如し。

納	北海タイムス	拾六錢	服部君
納	朝日新聞	貳拾錢	管君
納	萬朝報	拾五錢五厘	小松原君
納	実業之日本	拾參錢五厘	小松原君

一月三十一日 小松原君本日よりストーブを止めて木炭を使用せらる。

石川君本日より木炭を止めてストーブを使用せらる。

〇〇〇〇 委員会を開き、左の事項につきて協議せらる。

一、屋根修繕の件

一、月次会開催の件

衛生委員の小風呂につきての件

その他種々の重要事件につきて協議せらる。

杉木力蔵君本日午後七時退舎せらる。食事は本日限り。

二月七日 水野芳男、渡辺正敏両君本日退舎せらる。本日六時頃舎を出で立つ。食事は本日限り。小能君、水野の後襲ふて運動委員となる。

二月八日 中野香君本日午後六時半退舎せらる。

近頃は非常に退舎するもの多くなりぬ。原因は就れにあらむ。其の原因は我々の推察の及ぶ所にあらざるべし。

昨今は頗る暖気なりき。

二月九日 本月より実業之日本の十五日発行の分は、競売後十五日間図書室に置く事を掲示す。

丹部登君本日退舎す。食事は本日限り。

二月十日 水産科一年級坪坂太郎君入舎、食事は本日よりはじむ。

二月十二日 高橋君、三木君退舎せらる。

二月十三日 荒井君ストーブを止めて本日より木炭を使用す。

現在、舎生は僅か十八人となりけり、実に淋しくなりにけり。

二月十五日 晴 春陽にかゝわらず近頃非常なる寒気です。実に根気などは鼻の穴が氷りました。耳などはまるで氷かなにか冷たいものをのせられてをった様だっけ、運動部委員水野君退舎せられて後ピンポン盛んになって来た様だ。

二月十六日 晴 寒気さほど烈しからず、今日玄〔関〕の処、舎生の名札を作りて掛けらる。白字は在舎、赤字は外出の事なり。

〇〇〇〇〇 晴 北風烈しく吹、後曇り、雪降る。

今日二月の月次会、大原武夫君の中学卒業して遠く京都に趣かるゝに附、送別会を兼ねて開会す。小熊の開会の辞を述べ、次いで、服部君の赤穂義士に就いて話され、つゝいて小松原君のフレンドシップに就いて大ニ論せられ、次で大原武夫君の遺言として宗教的の話があった。野沢、大原純吉君の話あり、次に副舎長の訓示的話あり、つゝいて農学士石沢前副舎長出席せられて寄宿舎について三十五分許りの話があった。

つゝいて舎長宮部先生の話ありて頗る盛会なりき、後、茶話会にうつり、銭廻り……等盛んにやりて十一時二十分閉会せられた。今月の月次会、小数の人にもかゝわらず、頗る盛会なりき。

二月二十日 中食後直ちに南二条西一丁目武林写真館に大原武夫君の中学卒業記念の為め一同揃ふて撮影に出で立ちたり。

写真原板代三円五十銭、之れ舎費より出づ、焼増十七枚購ふ。一枚三十銭宛つのこと。

二月二十二日 委員会を開く

二月二十三日 寒林第八巻、四月中旬発行致すに附、原稿募集を掲示す。

二月二十七日 本日朝より大吹雪にて風呂休む。

今晚夕食後、新聞雑誌の競売をなす。その結果左の如し。

納 北海タイムス	十三銭五厘	和田君
納 萬朝報	十五銭五厘	和田君
納 朝日新聞	式拾一銭	管 君
納 実業之日本	十一銭	小松原君

競売後会計をなす。

三月八日 今晚富貴堂より忠義水滸伝を求む。

三月十二日 晴天 本日本科を除きて他科の第二学期試験の時間表発表せらる。

近頃は晴天うちつゞきてなんとなく長閑なる日和なり。

三月十七日 今夕大原武夫君退舎せらる。氏は、外国語学校受験の爲め不日上京の途に就かる、由、切に氏の成功を祈る。本日札中学の卒業式施行せらる。

三月十八日 晴天 本日より本科を除く予科実科の第貳学期試験始まる。

〇〇〇〇〇 是夕の食後委員会を開く。

右の事項に就いて相談す。

副舎長病気の爲め帰国するに付、今後約二週間留守中を会計委員内田君を委員長として万事を委員に頼まる。丹治副舎長今夕七時の列車にて帰国せらる。

札中の学年試験始まる。

三月廿五日 本大学の予科其の他実科第貳学期試験終る。

三月廿六日 札中の学年試験終る、札中の入学者成績発表せらる。

本日、第貳学期の最終の月次会を開く、篠塚君の開会の辞につづいて出でたる弁士坪坂君、氏は我が青年寄宿舍在舎生諸君に望むと云ふ題で大〔空白一字〕伯を例に引れて大に気えんを吐かる。次に出でたるは小野崎君、氏は殖林と貯蓄との關係を論ず。次は、副舎長病気の爲め帰省の際、委員長に任せられたる内田君得意弁で支那流の……は五官とか云ふ題でやられた。次は前副舎長の旅行の雜感を述べられた。次に舎長宮部先生の修養の中の肉体の修養について話された。

今晚、常務委員、臨時委員の改選、結果左の如し

常務委員として

上杉君	九票
管 君	八票
小松原君	八票
野沢君	六票

次点者

小熊君	五票
根本君	五票
坪坂君	五票

臨時委員として

臨時委員

園芸部委員 篠塚君 十一点

運動部委員 大原君 五点

常務委員互選の結果左の如し

会計委員 小松原君

食事委員 管君

文芸委員 上杉君

衛生委員 野沢君

今迄少しの学徳なき小生文芸部委員に任せられてより文芸部に関する事すべて忘れま
したから今度の文芸部委員上杉君僕の代りまで大々的に尽力せられむことを切に望む。

三月廿七日 雨天なり、今朝七時頃、吉野、上杉、管の三君と共に定山溪へ旅行せらる、
三両共に今朝より食事なし。

ちかごろ「ピンポン」かなり盛んなり。

本日午後七時発の列車にて根本君は帰省せらる。小野崎君は学术研究の為に函館青森
の方面へ学校より行かる。

三月廿八日 和田丘君退舎せらる。

三月廿九日 会計決算せらる。小人数の為め食費も先月分より少々高かった。

ちかごろ在舎生甚だ減じたり、在舎生の名を挙げレバ

丹治君、石川君、内田君、大原君、荒井君、小松原君、小野崎君、坪坂君、小熊君、坂
本君、野沢君、管君、吉野君、上杉君、篠塚君、服部君、近藤君等僅か十七人なり。

三月卅一日 曇り、後に大吹雪

廿七日定山溪に旅行せられたる吉野、上杉、管の三君共に本日帰舎せらる、食事なし、
吉野君本日より外泊せらる。

本日文芸部を譲渡す。

四月一日 本日文芸部委員を引受く

新聞雑誌競売左之如し

萬朝 大原君 十七銭

朝日 管君 二十銭

北海タイムス 小熊君 十六銭五厘

実日 服部君 十銭

四月二日 管君と小生二人及び旧在舎生丹部、中野、沼田君等を打ちつれ琴似なる三木君
宅に行き、雪キ滑りに行きぬ。七時の汽車にて時間も程なく大周章にて琴似迄行く、時
に三木君迎ひ来り共々打ちつれて六人にて三木君宅に一泊、朝の雪滑りを夢みて就辱せ
しは、十時頃。

四月三日 朝四時頃より起き出でて共々打ちつれ三角山をさして出発す。此日や甚だ寒か

りしも非常の愉快と動運にて寒さも忘れ非常の愉快なりし、十時頃別れをつげ、丸山公園にて暫し逍遥、十二時帰舎す。

此日、吉野外泊の処入舎。

管君二十銭納む。〔競売の朝日の代金〕

四月四日 篠塚君炭止む。

室交替組合せ発表、六日室更ひと定まる。

小野崎君 二人宛 内田君 一人宛

上杉君 荒井君

管君 吉野君

石川君 小熊君

小松原君 篠塚君

服部君

大原君

野沢君

根本君

坪坂君

四月五日 服部君炭を止む。

田中君入舎せらる。

四月六日 服部君炭止む。

四月七日 国民読本を求む。四十五銭

午前中稍曇りしも午後より晴天となり、テニスを行ひ始めたり。

吉野君炭を始む。

四月九日 丹治君、根本君帰舎せらる。食事なし。

四月十日 小野崎君、上杉炭を始む。

四月十一日 小熊君炭止む。

四月十三日 小野崎君外泊、同時に炭止む。

四月十五日 荒井君炭を止む。

四月十六日 野沢、大原両君炭を止む。

四月十九日 上杉君炭を止む。

四月二十三日 月次会開かる。

委員左の如し

内田、新井、吉野、服部君の諸氏なり。

当日は、宮部先生を始めとし、舎の先輩米山農学士来会せられ、有益なる演説再び米国洋行談ありて盛会なりし、又、管君、田中君、内田君の演説もありて十一時、閉会す。

四月二十四日 当舎先輩農学士森広さんより松苗百十余本御寄附あり、丹治、小松原、小熊君等の御尽力にて舎前に植ふ。

四月二十八日 午後七時頃新井君退舎せらる。

丹治君、炭三日間たく。

四月十三日 荒川君入舎せらる。

四月三十日 午後一時頃より四月分の決算を行ひぬ。未だ新委員のみにて決算甚だ困難なりし、舎生の少なき為と、外出者多き為め割合に聖費多かりし、在舎生を室順に記すれば、左の如し。

丹治君、小野崎君、上杉君、吉野君、大原君、野沢君、小松原君、服部君、小熊君、篠塚君、田中君、管君、石川君、根本君、坪坂君、内田君、近藤君、荒川君の十八名なり。第八号寒林発行す。今回の寒林には論文多く殊に、在舎生少なき為めさぞ原稿も少なからんと思ひ居りしに、意外にて舎生十九名の内四名を除き他は凡て出稿、為めに甚だ原稿多く、愉快なる事なりし。

四月三十日 夜、高橋戌亥君入舎す。(工科一年生) 食事なし。

五月一日 午後一時頃より舎の春季大掃除を行ひぬ、午前中より行ひし者もありし。

五月二日 田中君(中学五年生)新潟県高田中学転校の由を以て午前八時の汽車にて、帰国せらる、同時に退舎せらる。

午後夕食後より新聞雑誌の競売を行ふ。中々盛にして売れ行きも甚だよかりし、此日管君十一号の空室に対し娛樂室の紙を貼りしを以て丹治君より譴責せらる。

競売の結果左の如し。

萬朝	十八錢五厘	野沢君
朝日	廿錢	丹治君
北海タイムス	十七錢	管君
実日春季増刊	七錢五厘	上杉君
実日(二冊)	十錢	高橋君

五月三日 大原君、四月の新聞代十七錢出さる。

五月四日 運動会も近づき植物園には各科選手、日々練習勉強も殆ど手につかず舎内も少し元気付きし様なり。

五月二十二日 委員会開かる。変りし事もなし、月次会及び小野崎君送別会其他小事に就て行ひ、後、丹治君の茶菓の饗応にて散会したり。

〇〇〇〇〇〇 此日大風にて殆ど目も開け得ざる有様なるにも係らず皆々勇気を鼓舞して午後二時より左の番組にて庭球大会行なはれたり。

	紅		白
大将	小野崎君	大将	管君
	小熊君		大原君
副	上杉君	副	丹治君
	根本君		高橋君
	根本君		坪坂君

野沢君	内田君
篠塚君	服部君
小松原君	近藤君
小松原君	服部
荒川君	石川君

斯くして競争は二時頃より行はれ、先づ白軍の服部君、小松原君の組の為に敗る。

次の白軍の近藤君の組も又敗れて小松原君荒川君優退となる。

次に坪坂君内田君出で紅軍の篠塚君等戦ふて之を敗りぬ。

次に紅軍の野沢根本君出で又直ちに敗る、戦中、坪坂軍の鉢巻は実に奮っていたもので、さすがの紅軍も之れに平〔閉〕口したものと見へて遂に白軍の坪坂君勝利を得て優退となる。

次に出しは白軍の副将丹治、高橋の両君、紅軍の副将根本、上杉の両君出でたり、戦場少し元気付きたる有様にて互に全力を尽して戦ひしが如何なる運命か白軍は二度とも敗れて地上の露と終りぬ。

次に出では、白軍の大將管君、大原君にして暫時練習もありしが **play** の命令下ると共に互に今や遅しと用意したり、白軍は名にをふ名将なれば、紅軍は全力を尽し戦ひけれども遂に敗れたり。

次に出では、紅軍の大將小熊、小野崎の兩名にして此処両軍の勝敗の決する処、関が原の合戦なれば、傍観者は手に汗を握り得たり、紅軍は名にをふ老將軍にして白軍は新進の勇將、互に秘法を尽して戦ひしも管のあつぱれなる腕前に紅軍遂に一点の敗にて敗れけり、勝敗は之れ時の運、只美事なるこそよけれ。

次に優退試合あり

野沢君 共に 服部君 に敗られたり。

荒川君 坂坪君

次に

管 君 に敗られたり。

大原君

午後四時頃散会す。人数少なき割合に盛会なりし。

夜間は六時半より月次会始まりぬ。

宮部先生、石沢さんご出席の都合なりしも如何なる御都合か御出席なかりし、されど弁者こもごも出で最後に丹治君の話しありて後、茶菓の饗応あり、工科の二年生石川、小松原、内田、吉野君の四名は工学会送別会の為め欠席せられたり。

本日夕食の御馳走は、そばの予定なりしも如何なる都合か、すしとなりぬ。

五月二十九日 本日、五月中決算を行ふ。

六月三日 新聞競売を行ふ。試験前にも係らずなかなかの盛況なりし、

結果左の如し。

萬朝 十七錢 野沢君
朝日 十九錢 管君
北海 十六錢五厘 坪坂君
実日 十錢五厘 荒川君

六月五日 午前八時頃より植物園にて小野崎君卒業記念撮影致さんとせしも雨天にて中止となり、八時半出発、竹林写真館迄出掛けたり、間もなく宮部先生御出席せられ、舎生共々撮影、九時半頃夫々散会したり、舎生甚だ少なく、それに近藤君来らざりし為め先生とも十八名なれば中形口金にて半身として取りぬ、写真希望者七名にて凡てにて十枚注文したり、原板代二円五十錢、焼増代三十五錢の処三十錢とす。

六月八日 荒川君修学旅行ニ出発、食事あり。

六月十四日 荒川君帰舎し、食事あり。

六月十五日 本日は札幌神社の祭礼にて市中は非常の盛況、市中全部休業にて創成川岸の興業物及び北海道競馬大会等ありて人出多く、殊に晴天なれば更に多かりし。

博物館も十四、十五、十六日の三日間臨時開館す、此日、小野崎君送別記念写真六枚だけ出来キ、一枚を先生に、一枚を小野崎君に、一枚を舎を、一枚を丹治君に渡す。二枚は他の四枚出来次第、舎生に分たと取り置けり。丹治君より金四円六十錢の写真立て替金を渡さる。原板量〔料〕は舎費とす。写真代は本日渡さずして凡て出来次第渡す事としたり。

〇〇〇〇〇〇 本日学年試験終了したれば、人気非常にて、月次会を兼ね小野崎君卒業送別会ありたり、宮部先生、石沢さん等臨席せられ非常の盛会にて演説終了後、茶話会ありて余興等あり面白かりし。

此日又月決算ありたり、一人平均七円六十錢。

内田君本日朝、実修として出張せらる。食事なし、石川君前日午後十時の汽車にて帰宅せらる。食事あり。

本日野沢君六月萬朝十七錢納入。

荒川君写真代三十錢、実日十一錢五厘

服部君写真代三十錢納入せらる。

本日又文芸部決算行ふ。

六月三十日 野沢、根本、上杉の三君は終日、土産よ、荷造りよとて大噪ぎして居った、側からも楽しげだ、何れも一年なれば、帰心矢の如き有様だ、今夜十時発車にて帰省の途に上らる。

吉野君が今夜十時頃退舎せらる。家事上の都合より北四西十五丁の実家に帰らる。

七月一日 午前に坪坂君が養殖部一同と共に実験実習の為め忍路臨海実験所に行く。

予定約十日間なり、愉快にして実益ある日を送られん事を。

久しく計画して未だ起工せざりし我東の庭のレベリング等の土工を本日いよいよ初めぬ。午後中食後直ちに初めぬ。小熊君、管君、小野崎君、丹治君なり。先づ植物園の花室よ

り宮部先生の御許可により唐鍬二、モッコウ、タンカー、草刈鎌二、レーキ二を借りて初めぬ。水を先づ除かんとせしも能わず、大楡の古木を切り、又土を掘る、後、小松原君、高橋君も用事終り帰り来り、手伝ふ。大ニ元気生ず、其中、服部君、近藤君来援す。勇氣益々加はる。何でも仕事は大勢にてやるに限る。荒川君、大原君も来る。丹治君は三時半頃より用事にて止めぬ。

篠塚君は用事にて欠席。

皆々よく働きて六時まで働く、大に夕食を食し、豆腐汁篠塚君の分なくなり、婆やは二回汁を作る。一同風呂に行き、帰りに舎より菓子あり、茶話会を開きたり。

中途より農場（第二）に行き、スペード二、鍬二、唐鍬二を借用せり。

七月二日（晴天、土） 前日の残りをなす。

午前と午後となす人を分つ、午前は、小熊君、小野崎君、篠塚君より九時より初めぬ、十一時半頃より丹治君、服部君、管君も来援す、中食し、舎より菓子ありたり、午後は、小熊君、丹治君、管君、服部君、荒川君、近藤君なり、大木の株は所々をのこやまさかりにて切りたり、小松原君、次いで高橋君も二時頃より帰舎し、手伝ふ、五時頃、大原君一寸加勢す。

さしも大なりし古株も大勢の力にて遂に転ろがして、池中に落し、金棒の東ハ平らに地ならしし、とりし土ハ路の側にそうてだんだん池を埋めぬ。実に立派になった。大なるレーボアだった。皆が手に四つ乃至十ケの大豆を得た。而し身体のためには大ニよい。一昨日『廿年前の学生々活』（種蒔権兵衛著）が著書より宮部先生を通して寄附さる、大に面白い。皆争って読んだ。ひそかに聞けば、著者は大脇正醇とか。

今夜ハ五時四十分頃終り、鶏肉の汁とさしみの御馳走に舌鼓打ちて食べた。

後、舎より湯銭寄附ありて一同揃ふて竹の湯ニ行き、夜ハ一同会してトランプを遊びぬ。

七月五日 小松原君は朝食後舎を出達〔立〕し銭函に向はる。二ヶ月の間、彼の辺の鉄道工事監督に働きに行けり、而して銭函に宿泊しあり、実は昨朝左様ならを云ひて出発せしが余りに札幌が恋しいので昨夜は帰舎したのだ。願はくは実益ある日を暮されん事を。

七月六日 小熊君昨日成績発表。本日朝食後八時半の発車にて苫小牧に実習に行かれた（十日間）、

今舎に残れるは左の八名だ。

管君、小野崎君、高橋君、丹治君、服部君、大原君、荒川君、近藤君

七月九日 十一時頃の汽車にて忍路臨海実験所に行ける水産科新二年の漁撈部生と共に管君も行かる、中食をなしき。

七月十日 坪坂君今夜帰舎

近頃数日は曇天雨気なり。

七月十三日 今夕、小野崎浩三君退舎せらる、君は四年前に林学科に入学して来札せらるゝや否や我舎に入舎され、色々舎の為に尽力され、温良よく吾舎「平和の源泉」たりき、今や去る、惜しむべし。

七月十八日 中学諸君本日より一学期試験初まる。

七月廿三日 管君、忍路実験所より帰舎、中食よりなす。

私立中学試験了り。

七月廿五日 松本純爾兄ハ本日より夏中在舎生となる。中食よりなす。

兄ハ一昨年、林学科を卒業し、今ハ岩見沢農学校ニ教諭たり、三年間舎に在りて尽力されたり。

秋田市、茜金太郎様より入舎願あり、許可の旨返信す。

七月廿七日 米沢市、佐藤秀太郎様より入舎願あり。

七月卅日 近藤邦男君帰国。

七月卅一日 午前ニ坪坂太十郎君忍路実験所に向け出発。

夜、大原純吉君、荒川一君其々父母の膝下に楽しげに帰らる。諸君の有益有味の休暇を迎へて林檎の赤味帯ぶる頃、再び大なる元気を以て帰来せらるゝを待つ俟。

八月六日 昨夜十時頃小松原君ハ錢函より来舎、招魂祭見物なりと、今朝早く出発、食事全くなし。

今夜十時頃、小熊君が実習より帰らる。

八月八日 荒川君岩見沢より出札、舎にて遊び宿泊せらる、中食と夜食す。

八月五日 夕刻、服部君退舎、父上様が札幌ニ態々同君教育の為め来たり一家を持たれたるなり。

八月九日 荒川君帰らる。

八月十三日 朝、篠塚君ハ一ヶ月の予定で旅行に出発せらる。日高十勝北見の方面なり、幸に壮健にて実ある旅行を迎へられん事を切望す。

八月廿四日 大原君帰舎

夕方、内田君久しき働きより帰舎せらる、夕食セズ。

八月廿五日 今日ハ婆や不在ニ付、夜食の支度なされず、皆してしる粉を作る事とせり、小熊君のあつき作り、内田君はきうりもみを作った。五時頃餅を焼いて六人で大にやった。一升五合の餅と八合のあつきなり、総て平らぐ。

此夜、十時内田君発車帰省せらる。

八月廿六日 夜七時着札にて坪坂君帰舎。

八月卅一日 夜荒川君帰舎。

九月一日 近藤君帰舎。

九月四日 高橋君、朝食前に釧路方面旅行の為め出発。

九月六日 夜八時頃、高橋君旅行より帰舎せらる。

九月五日 小松原君久しく錢函複雑工事に実習に行き居りしが今日午後一時頃帰舎せらる。

九月八日 小松原君室蘭方面旅行の為め朝食前に早く出発せらる。

九月九日 今朝五時五十分着札にて野沢君帰舎。

九月十日

- 小松原君帰舎、夜食せらる。
- 水産一年生、秋田県人、茜金太郎君今朝入舎（一号）
- 予科一年生、長崎県人、上野啓太郎君、今日午後入舎（四号）
- 予科一年生、山形県人、佐藤秀太郎君、今夜入舎、食事せず。
- 根本君、今朝着札、帰舎。
- 管君、上杉君共に今夜七時九分着札、帰舎せらる。

諸君は数旬の休暇を山紫水明の故山、父母の〔以下欠〕

九月十一日 今朝五時九分着車、石川君帰舎、

○秋田県人、予科一年生、大貫吉之助君、本日午後入舎せらる。

九月十二日 本日より学校は授業開始、雨天にて非常に寒かりし。

九月十三日 本日午後七時、内田君帰舎す、食事なし。

〇〇〇〇〇 本日委員会正午より開かれ、新入生歓迎会、月次会等種々の相談ありて、二時閉会したり、今度の委員は、小熊、大原、篠塚、高橋君とす。本、フランクリン自叙伝、交際と対話を求む。

九月十八日 本日は日曜日にて且つ晴天なれば、舎生中には種々の方向に遊びを試みられし者もあり、朝八時頃より新聞競売ありて非常の人気なりし、其結果左の如し

九月分北海タイムス	十銭五厘	上杉
九月分朝日	十三銭五厘	高橋君
学生	六銭五厘	茜君
中央公論	十二銭五厘	小松原君
実業日本（二）	八銭五厘	荒川君
朝七八月	七銭	野沢君
タイムス七八月	十二銭	小熊君

本日、来ル二十三日（金曜日）新入生諸兄の歓迎会を兼ね月次会を開く事を掲示したり。本日は又大掃除を行ふ事とて朝より噪々しかりし。

本日午後十時頃篠塚君帰舎せらる、食事なし、本日十五夜の月見会に豆、きびありたり。

九月十九日 本日文光堂に桜井の欧州見物及び、坪内博士のハムレットを注文す。

九月二十三日 本日午後六時半より月次会を歓迎会を催す。小熊、小松原、丹治君等の歓迎の辞ありて後、大貫君新入生総代として答辞ありたり、後、宮部博士の有益なる講話ありて後、委員改選を行ふ。其結果左の如し。

本日の御馳走は豚飯にして美味なりし、

坪坂君	十一票	根本君	八票	
高橋	七票	小熊君	五票	
園芸	篠塚君	七票	大原君	三票

九月二十四日 本日は秋季皇霊祭にて学校は休校にて加ふるに翌日の日曜と来れば、舎生の多くは野外散歩に出でたり、上田君朝出発、小樽に行かれ一泊の予定なり。

九月二十六日 本朝、丹治君は旅行に向はる。

九月二十八日 本日夜、丹治君帰舎。

九月三十日 本日を以て文芸部委員を根本君に譲渡す。小生の悪筆たる、げに今退、文芸部日誌を更に飾るなく、平々凡々として過ぎ去りぬ。願はくは次の委員根本君余に代りて充分の御尽力あらん事を。

十月一日 天気晴れたれど、午後より風吹きなかば黄ばみたる樹葉風のまにまに飛び散ず、階前の梧葉すでに秋声の詩を思ひ出さる、午後先輩小野君出張先よりの来状あり、夕食後、白墨一箱買入す。

十月二日 本日は日曜日にて且天気快晴なれば、午前より舎生各々遠足に行かれたり、山田君は月寒方面へ遠足せられ、小熊、佐藤の二君は高橋君と共に丁寧の山へ登山せらる。午前、丹治君、近藤君の二君にて寄宿舎構地の東側へ柵を作らる、萬朝本日より取る。

十月三日 晴天なり、内田君、小松君は六日間の予定にて修学旅行に行かる。食事あり、夕食後、新聞、雑誌の競売をなす、その結果左の如し。

北海タイムス	十五銭	管君
万朝報	十六銭五厘	野沢君
朝日	十六銭	根本君
実業之日本六七月分	六銭五厘	佐藤君
学生臨時増刊ナポレオン号	二十一銭	篠塚君
日本及日本人	五銭	荒川君

十月四日 天気晴れ 本日小熊君より舎生十七名の文芸費含み二十五銭を受け取る。

十月五日 天気晴れ 本日富貴堂より中央公論持ち来る。オルガン月賦代金一円丹治君へ渡す。尚ほ運動費として二円五十五銭大原君へ渡す。

十月六日 天気晴れ、出面二人傭ひ、池の東側の高所を平になす。

十月七日 天気晴れ 暫く旅行にて不在なりし小松原君帰せらる（食事なし）

十月八日 天気晴れ 午後九時過ぎ、内田君旅行より帰舎せらる、食事なし。

十月九日 日曜日なれど曇天のため遠足等はなすことを得ず。

十月十日 雨こそ降らねど曇天なり。

十月十一日 晴天なり、本日農科大学にて軽川方面へ遠足をなし、合せて札幌より軽川までの長距離徒歩競をなす。

十月十二日 晴天なり、昨日の遠足慰労として本日は学校休みのため朝寝坊したる人二三人に止まらず、前庭の牧草播き直したため古牧草を除去することを掲示せらる。

十月十三日 晴天なり

十月十四日 晴天なり

十月十五日 晴天なり、空青く樹木紅葉せる当寄宿舎テニスコートに於て秋季テニス大会を開催す、当日のメンバア左の如し

〔メンバー表記なし〕

十月十六日 晴天なり。本日の日曜と明十七日の神宮祭とを利用して定山溪へ旅行をなす、舎生一同行く積なれど都合悪く行かざる人あるため当日旅行せる一行左の九名となる。

上杉君、高橋君、野沢君、大原君、佐藤君、上田君、管君、篠塚君、根本君
右一行各人米一升、タマネギ六、ポテト一六ケを持ち午前八時意気揚々と寄宿を出発す。当日各自の服装は自意なりしが故正帽を戴くあり、烏打ちを戴くあり、何れもふるいたるスタイルなりしが、案山子の帽子となしたりとも勿体なからぬ如き夏帽を戴ける篠塚君のスタイルは最もふるったものなりき、馬車鉄道の線路に沿ひ、秋風を身にあびつゝ談笑し行くこと約一里にして一農家に入り林檎を買ひ食して以て渴を医す。ここより前方は連山にして蔽ふに紅葉を以てす。我等一行旅の労を慰す。これより先、尚進めば一清流の東南より来るに遇ふ、此れ豊平川の中流にして水清くさながら其の色藍のごとく対岸の紅葉に相へ影じて其のコントラストの美麗なること筆舌の及ぶ所にあらず、かゝる沿道の美を賞しつゝ七里の行程もいつしか過ぎて定山溪なる我等が宿高山温泉場へ着せるは午後三時三十分なりき。宿は川に面し、対するに山を以てす。山は常緑樹は緑に、紅葉は紅にして恰も火のもゆが如きものあり、一行先づ入浴し、そゞろに紅葉を賞す。すでにして食事員夕飯を持ち来ることに於て紅葉を賞観する声変じて牛肉ウマエタタタの声と変ず。人も亦現金なるものかな、夕食後、宇多歌留多を遊び或は詩吟放歌等をなす。こゝに於て旅の労もゆへたり、十一時頃就寝す。

十月十七日 曉夢さむれば我等一行宿屋にあり、起きて障子を押せば今日も亦晴天なり、紅葉は昨日にかはらず美し、山中の朝は又格別なり、殊に太陽山の端に出で紅葉にその光線をあびせかけたるの美、一しほ面白し、午前八時頃朝飯を食し、一同散歩す、帰って十二時頃まで談笑し、十二時頃、牛肉とタマネギの汁と、大枚十五銭を投じて熊の肉を買ひ汁をなして食す、其の味頗る甘し、一行、篠塚を除く外、之れ蓋し生れてより以来始めて熊肉を食したるなり。

午後一時半頃秋の静かなる日光を身に受けつゝ、帰途につく、石山に至れば月すでに東天にあり、帰舎して時計を見れば七時三十分なりき。

十月十八日 曇天昼頃より雨少しく降る、余程寒し。

十月十九日 雨降る。本日より学校にてスチームを教室へ通す。

十月二十日 晴天なり、朝飯前大根乾しをなす。

十月二十一日 晴天なり、午后より少し風吹く。硝子窓其の他諸々破損の箇所を大工来りて修繕す。尚ほ本日新しき靴箱二ケを備へ付く。

十月二十二日 午前晴れ午後少しく雨降る。

便所に新に戸一枚を付く。夕食後常務委員会及び本寄宿舎創立記念会委員会を丹治君の室にて開く、尚ほ本日室替をなす、その結果左の如し。

第一号室 小松原君、大原君
第二号室 篠塚君
第三号室 大貫君 茜君

第四号室	野沢君	上杉君
第五号室	小熊君	荒川君
第六号室	坪坂君	上田君
第八号室	管君	高橋君
第九号室	内田君	石川君
第十号室	佐藤君	根本君

十月二十三日 天気晴快、記念会の招待状を認む、下駄箱、靴箱等へ番号札を貼付す。

十月二十四日 天気晴快、本日午前、左の諸君へ記念祭招待状を出す。

森広、小金井朝三、吉田守一、村上雄之助、小野崎浩三、徳田義信、工藤蔵之助、今興太郎、松本純爾。

十月二十五日 天気快晴

十月二十六日 快晴、村上雄之助君より記念祭不参の返事来る。同時に同氏より記念会費用として一円を送り来たる。

十月二十七日 快晴、夕飯に松茸飯の饗応あり、松茸は管の郷里より送り来るものなる由。

十月二十八日 快晴

十月二十九日 快晴、今興太郎君へ再び招待状を出す、学生十一月分富貴堂より来たる。

十月三十日 曇天、夕食後、新聞雑誌の競売を行ふ、其の結果左の如し。

北海タイムス	十七銭	管君
万朝報	十六銭	丹治君
朝日	十七銭五厘	坪坂君
中央公論	十五銭五厘	佐藤君
学生	十銭五厘	篠塚君
学生（十一月分）	十銭五厘	上田君

十月三十一日 曇天、余程寒し、富貴堂へ十月の中央公論代を支払ふ。

十一月一日 快晴、寄宿各室の障子の骨の破損せるを作りにやる。

十一月二日 朝来雨降り、夜に至るも尚ほ止まず。

十一月三日 本日今上天皇陛下第六十回の天長佳日なり、学校にては図書館に於て九時より祝賀式を挙行す。佐藤学長代理として宮部博士の詔語奉読あり、後、同博士発声にて天皇陛下、皇后陛下の萬歳を三唱して開式す。朝以来雨降りたれど昼食頃より、雨霏〔霽〕る。寄宿にては昼食にしろこの馳走あり。

十一月四日 晴れ、寒気余程強く午後少しく降雪あり、之れ蓋し今年降雪の始めとす。

夕食後各人夫々昨〔明〕日の準備に忙殺せらる。

十一月五日（土曜日）快晴 第十一回創立記念式を開催す。

来賓 宮部先生、石沢氏、同令夫人、森本氏、森氏、徳田氏、石津君

当委員

庶務委員 丹治君、根本君

接待委員 丹治君、篠塚君

会場委員 内田君、石川君、野沢君、大貫君、根本君

賄 委員 小松原君、高橋君、坪坂君、大原君、荒川君

会計委員 小熊君

余興委員 管君、篠崎君、茜君、佐藤君、大原君、上田君、上杉君

会場の正面には黄色の菊にて祝紀念の三字を作り、赤き菊にて其の縁をとりたる美麗なる額を高く掲げ、万国旗をはる、六時来賓及び舎生一同食卓に着く、卓上には、コップにスウキートピー、フクロス等の花をたてたるを置く。すこぶる高襟〔ハイカラ〕なりき、六時半食事終り、七時過ぎより本会に転ず、第一、丹治君の開会の辞あり、次に文芸部の報告、会計報告あり、これに次ぎて内田君の歓迎の辞及び祝辞あり、次に森本氏の演説、森氏、石沢氏の演説あり、最後に宮部先生の有益なる御訓話あり、同先生の発声にて当寄宿舎の萬歳を三唱す。次に舎生一同祝歌を唱ひ閉会となる。此より余興に転ず。余興はすこぶる盛にして余興者の上手なることは又驚く可きありたり、然れども惜むらくは余興興に入らぬうち来賓の帰宅せられたるため甚だ残念なりき、当日の重なる余興左の如し。

詩吟、大魔術、綾ツリ人形、誉の扇、恥音機、関所起、福引等なり、十二時閉会となりき。

本日より上杉君、野沢君は炭をたく。

十一月六日 晴れ、久しく中止したりしピンポン本日より再び始む。

十一月七日 快晴にして晩秋の天気としては実に珍しき好天気なり。

十一月八日 晴れ、朝霜降る。本日予科に於て兎狩をなす。二十一疋捕へたりと。篠塚君本日より炭をたく。

十一月九日 晴れ、夜に入りて寒さ余程加はる。

十一月十日 晴れ、坪坂君本日より炭をたく、小熊君も同様。

十一月十一日 午後、雨雪降る。佐藤君、小松原君本日より炭をたく。十時（午後）過ぎ、農家大学教授森本厚吉氏宅火災に依り焼失す。同情に堪へず。丹治君炭をたく。

十一月十二日 雨天、暖くして炭を焚かずにすむ位なり。

十一月十三日 曇天、加ふるに時々降雨す。南博士火事見舞の返礼に来らる。

十一月十四日 曇天、夜に入りて雨降る。

十一月十五日 晴れ、寒気強し。丁寧の山近くは、藻岩山は降雪のため真白く、午後、少しく降雪す。

十一月十六日 曇り、午後降雪あり、暫くは地面真白くなりしが夕方近くなりて又雨となる。本日より高橋君炭をたく。

十一月十七日 曇天、朝と午後降雪あり、夕食後、発明館に於て文芸部印肉を買ひ来る、代価二十五銭。

十一月十八日 朝以来、数度の降雪あり。

十一月十九日 少しく降雪あり、余り寒からず、高橋君本日までにて炭を止む。

十一月二十日 今日は昨日に打ちかはりて、近頃珍しき好天気にてさながら初春の天気のごとし。近頃四五日曇天なりしたためか、今日は非常に心地よく感ず。

十一月二十一日 降雪ある。加ふるに強風吹く。小松原君本日にて炭止む。

十一月二十二日 快晴、朝は此頃稀れなる寒にて便所の手水鉢へ薄氷はる。昼頃に至り寒さ減じたり。本日農科大学水産科にて軽川方面へ兎狩を催し、等寄宿に於ても水産科の生徒は皆行く。

門限十時の掲示を丹治君なす。

十一月二十三日 晴れ、新嘗祭にて学校休み、本日も門限十時までなり。

十一月二十四日 曇天、雪こそふらねど寒さ甚だしく今にも雪降らんとする空模様なり、本日は祭日の翌日なれば北海タイムス来らず。

十一月二十五日 此の頃珍らしき大雪あり。

往来真白くなる、寒気も甚だし。

十一月二十六日 午後二時頃より降雪あり、寸余積る。夕食頃に至るも尚ほ止まず、空模様に依れば尚ほ降り続く様なり、炭商より炭十俵受け取る。本朝より洗面場の小風呂に湯を置く。

十一月二十七日 朝、床をはなれ外を眺むれば、一面の雪にて樹々の梢に降りたる雪はさながら花に似たり、舎前の池には薄氷はる、昼頃新聞家新聞代を取りにくる。

十一月二十八日 降雪なし、本日は南極探検の極地向ひて出発するの日なり。

十一月二十九日 降雪あり、寒気強し。

十一月三十日 降雪在り、午後富貴堂雑誌代を取りにくる。即時支払ふ。夕食後十一月分決算を行ふ。尚ほ新聞雑誌の競売をなす、結果左の如し。

北海道タイムス	十八銭五厘	茜君
東京朝日	二十銭五厘	高橋君
萬朝	十四銭	上杉君
学生十一月分	九銭	荒川君

今晚、東京新聞を読めば、昨二十九日午後品川を抜錨し白瀬中尉一行は、愈々南極探検の途に着きたりとのこと、彼等前途恙なく其の目的を貫徹せられんことを切に希ふ、夕食後、水産科一年生田口君入舎せらる。

十二月一日 降雪なし。

十二月二日 降雪なし。

十二月三日 降雪なけれど、寒気強し。

十二月四日 降雪なし、夕食後、当寄宿に三年間居りたる先輩小野崎君よりはがき来る。

十二月五日 降雪あり、寒気強し。

十二月六日 降雪あり、寒気強し。

十二月七日 降雪あり、寒気強し。

十二月八日 降雪なし、寒気強し。
十二月九日 雪降らねど寒気強し、農科大学試験時間割掲示せられたり。
十二月十日 降雪も無く寒気も強からず、空晴れて雲是一片だもなく、清く澄み渡る空に清き星と月とが、いと寒さうに輝いて居る。何となく心静なる夜なり。
十二月十一日 降雪あり、寒さ甚だしからず。
十二月十二日 降雪あり、寒気強からず。
十二月十三日 降雪なし、寒気強からず。上田君病気保養のため室蘭の温泉へ三週間の予定にて朝食後発札す。
十二月十四日 降雪あり。
十二月十五日 降雪なし、本日農科大学の試験開始せらる。
十二月二十日 中学の第二学期の試験終る。
十二月二十一日 農科大学の試験本日にて結了す。夕食後、四十三年最終の月次会を開く、宮部先生、石沢先生の御出席あり、有益なる訓話ありたり、閉会后委員改正を行ひ、其の結果左の如し。

常務委員

坂田君

管君

大貫君

茜君

運動部委員

佐藤君

閉会后九時過ぎ、丹治君、大原君は帰省せらる。

本日の委員左の如し。

石川君、篠塚君、内田君、田口君

十二月二十二日 降雪なし、朝飯後、八時の列車にて発札帰郷す（大貫、茜の二君）

十二月二十三日 降雪なし、昼飯後、管、坪坂の二君、実習に行かる。

十二月二十五日 降雪なし、夕食後、図書室に於て歌留〔多〕を遊ぶ。

十二月二十七日 午前、少しく雪降る。夕食後、第八号室に舎生一同合して当寄宿舎の改善に付き相談をなす。

十二月三十一日 降雪なし、寒気強し、夕食には種々の饗応ありたり。夕食後新聞の競売及雑誌の当撰なす、其の結果左の如し。

北海タイムス 十六銭 管君

朝日 卅五銭 小松原君

萬朝 十七銭五厘 高橋君

中央公論（十二月分）十六銭 根本君

当撰雑誌

太陽、実業之日本